

第 269 回 増上寺の和宮像、勢至丸像、及び明照大師像

筆者：林 久治（記載：2024 年 3 月 10 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は「日本の銅像探偵団」 ([1\)のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張っって人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」という意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。私の銅像探索記の全ては、[2\)のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

今年の冬は暖冬で、特に 2 月 20 日は初夏の気候であった。私は毎週末に、健康増進を兼ねて銅像探索に行っている。2 月 24 日、私は墨田区本久寺に雲山像を探索し、雲山像とシーボルト像の探索記を [267 回の記事/f](#) に記載した。2 月 24 日に私は浅草の九代目市川團十郎像と大谷米太郎夫妻像も探索した。これらの探索記を [前回の記事/f](#) に記載した。

私は [3\)のサイト/3](#) で、港区の増上寺と日本女子会館に和宮像があることを知った。本像は、[1\)のサイト/](#) に収録されていない。また、増上寺には法然上人の童形像が 2 基ある。その内、勢至丸像は [1\)のサイト/](#) に収録されているが、明照大師像は収録されていない。そこで、私は 3 月 9 日にこれら 3 像を探索した次第である。本稿は、増上寺のこれらの銅像の探索記である。なお、本稿では私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。

（2）増上寺大殿前の勢至丸像

増上寺の境内図の一部を、次ページの図 1 上に示す。本寺には多数の伽藍や門があるが、私が今回探索したのは、大殿（図 1 上の①）、安国殿（図 1 上の②）、及び明照会館（図 1 上の③）であった。

[5\)のサイト/](#) は、増上寺の略歴を次のように書いている。

増上寺は、浄土宗の七大本山の一つです。1393 年、西誉聖聰（ゆうよししょうそう）上人によって、江戸貝塚（現在の千代田区平河町付近）の地に、浄土宗正統根本念仏道場として創建され、関東における浄土宗教学の殿堂として宗門の発展に寄与してきました。安土桃山時代、徳川家康公が関東の地を治めるようになってまもなく、徳川家の菩提寺として増上寺が選ばれました（1590 年）。家康公が当時の住職源誉存応（げんよぞんのう）上人に深く帰依したため、と伝えられています。17 世紀中頃の増上寺は、広大な寺有地に 120 以上の堂宇、100 軒を越える学寮が葺ぶきの屋根を並べ、とても大きな寺でした。苦難の明治期と戦災を乗り越えた増上寺は、1974 年に悲願の大殿再建を果たします。それ以後も、次々と諸堂宇を完成させています。宗祖法然上人八百年御忌をお迎えするにあたって、2009 年には圓光大師堂と学寮を、2010 年には、安国殿を建立しました。



図1. 上：増上寺の境内図の一部、①：大殿、②：安国殿、③：明照会館、本図は、[4\) のサイト/](#)より借用。下：大殿前の勢至丸像。

図1下に、大殿前（図1上の①）に設置された座像を示す。本像台座正面には題字があり、それには「**幼少の法然さま**」とあった。次ページの図2左に、本像の近

接写真を示す。図2右に、本像台座背面の刻文の一部を示す。光の反射により、この刻文の写真は不鮮明であったが、本刻文は次のように書かれていた。

昭和五十七年四月吉日 法然上人降誕八百五十年記念

大本山増上寺第八十四世 明誉代 執事長 金田明進

6) のサイトによれば、増上寺第八十四世は「藤井実応(明誉)」という方で、その方に代わって執事長の金田明進氏が本像の制作に関わったようだ。本像周辺には、上記以外の情報はなく、本像の制作者は不明である。



図2. 左：勢至丸像、右：本像台座背面の刻文の一部。

法然上人の略歴は多くの記事に書かれている。ウィキペディアに書かれている略歴を概要欄に記載する。以上の資料などにより、勢至丸像の概要は次の通りである。

勢至丸座像

設置場所：東京都港区芝公園 4-7-35 増上寺大殿前

制作者：不明

設置時期：1982年4月 降誕850年記念

設置経緯：法然上人(1133-1212)は、平安時代末期から鎌倉時代初期の日本の僧である。はじめ山門(比叡山)で天台宗の教学を学び、1175年、専ら阿弥陀仏の誓いを信じ「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えれば、死後は平等に往生できるという専修念仏の教えを説き、のちに浄土宗の開祖と仰がれた。幼名を勢至丸、大師号は、500年遠忌の行なわれた1711年以降、50年ごとに天皇より加諡され、2011年現在、円光大師、東漸大師、慧成大師、弘覚大師、慈教大師、明照大師、和順大師、法爾大師の8つであり、この数は日本史上最大である。

(3) 増上寺安国殿の和宮像

図3に、安国殿(図1上の②)の玄関を示す。[7\)のサイト/](#)には、安国殿の説明が次のように記載されている。

戦災で焼失した大殿の代わりに仮本堂としていた建物を、1974年、新大殿完成の折りに境内北側に移転し、御堂「安国殿」としました。老朽化のため、2011年法然上人八百年御忌を記念し、念仏信仰の拠点として徳川家康公が成し遂げた「天下泰平の世(安らかな国づくり)」を願い、新しい安国殿が建立されました。本堂中央に本尊である、恵心僧都の作と伝えられる秘仏「黒本尊」(御開帳・黒本尊祈願会、正月・5月・9月の15日)は、家康公が深く尊崇し、そのご加護により度重なる災難を除け、戦の勝利を得たという霊験あらたかな阿弥陀如来像で、勝運・厄除けの仏様として江戸時代以来、広く人々の尊崇をあつめています。また、御前立の阿弥陀如来立像、脇陣には家康公肖像画、徳川家御歴代並びに御一門の尊霊の御位牌、皇女和宮さまの等身大の御像等が祀られており、安国殿は当山の祈願所として親しまれています。



図3. 増上寺の安国殿

安国殿内部の写真を、次ページの図4上に示す。本殿の壇上には多数の像が設置されているが、図4上は向かって左側である。そこには、2基の像があった。その大きい方が、和宮像のようである。その近接写真を図4下に示す。本像には何の説明も無かったが、本像は[3\)のサイト/3](#)に掲載された和宮像と同じであった。

(本文は、6ページに続く。)



図4.
上：安国殿内部の左側、
下左：和宮像の全身、
下右：和宮像のお顔。

[3\) のサイト/3](#)には、増上寺のみならず日本各地にある和宮像の建立経緯が詳しく説明されている。その要旨を以下に記載する。

①和宮親子内親王（1846年7月3日－1877年9月2日）は幕末期の公武合体政策の犠牲になった悲劇の姫とされています。和宮像として有名なのは芝の増上寺にあるものです。安国殿に入り、正面左手に安置されています。銅像があることはだれでも気がつくとは思いますが、あまりPRされていないので、和宮の像だと気がつかない人も多いかもかもしれません。この和宮像は、鑄造師の慶寺丹長師により昭和3年に製作されたものです。

②増上寺の説明では、和宮像は、日本に三体あるそうです。その一体が増上寺にあるわけです。他の像は、一つは日本女子会館にあります。増上寺の和宮像の由来も曖昧ですが日本女子会館の和宮像となると、そこにあるのは判っているくらいしか情報がありません。ではこの2つがまったく同じ像かといえば、印象として同じモデル（つか年代的に写真か絵から）作られた感じはあるのですが、出来上がりは微妙に違います。少なくとも同じ鑄型から製作されたものではない気がします。増上寺の和宮像は普段は公開されておらず、日本女子会館に至っては公開さえしていないようなので実物を確認しようがない。

③もう一つの和宮像は兵庫の高等学校にあるそうです。これは正確に言うと、かつては高校（というより高等女学校）にあったになります。現在は安徳宮の傍らに平成13年に安置されたとなっております。須磨の和宮像の由来も波乱に富んでおり、[8\) のサイト/1](#)が引用された「ひょうご幕末維新列伝」には、「一ノ谷中腹の土地を戦後購入した塩田富造氏が、一体の身元不明の銅像が放置されているを見つけました。銅像は高さ1.2m程で、十二単を着た女性でした。その後、塩田氏は一ノ谷合戦を記念する碑を二基建立し、その横に銅像を並べて安置しました。」とあります。これが、和宮の銅像（慶寺丹長 作）でした。

④戦後に山中に放置されていたものを塩田富造氏が見つけたとなっております。この須磨の和宮像ですが「ひょうご幕末維新列伝」には「昭和9年、神戸米穀取引所理事長などを務めた中村直吉氏は、娘が通う神戸市立第二高等女学校（現：市立須磨高校）に寄贈しました。中村は同時に県一（現：県立神戸高校）・県二（現：県立夢野台高校）の二女学校に、同11年には、東京の増上寺と日本女子会館に和宮像を寄贈しています。」との記載があります。

一方、増上寺のサイト（[9\) のサイト/1](#)）には、次の記載があり、上記の内容とは少し違っている。

等身大といわれるブロンズ製の御像が増上寺安国殿左脇壇に安置されております。昭和元年（1926年）に増上寺で修された静寛院宮50回忌法要ののちに企画され、「和宮様の奉賛顕彰と日本女性の婦徳の涵養」を目的に、同8年正月、鑄造師・慶寺丹長により制作されました。宮中の式日に参内する姿を表したとされています。

なお、須磨の和宮像は[1\) のサイト/](#)の「神戸市・西部」欄に収録されている。日本女子会館の和宮像は[1\) のサイト/](#)に収録されていない。本館は増上寺に近いので、私は本館にも今回本像の探索を計画していた。そこで、私は事前に本館に電話して、和宮像の拝観を依頼した。本館からは「最近、塔ノ沢の阿弥陀寺に移管しました」との意外な返事を頂いた。

「塔ノ沢の阿弥陀寺」で検索すると、[10\) のサイト/1](#)に次の記事があった。

2022年3月26日：神奈川県箱根町塔之沢の阿弥陀寺に今月、皇女和宮のブロンズ像が寄贈された。1933年に数体のブロンズ像が作られた。その一つを所蔵していた都内の団体が増上寺へ寄進を要望したが、同じ形状の像があるため阿弥陀寺に贈られることになった。阿弥陀寺には和宮が家茂の無事を祈ったとされる黒本尊もある。和宮の七回忌を塔之沢で挙行する際、増上寺が寄贈したという。

本像の制作者の慶寺丹長に関しては、彼の経歴を記載した記事はない。ただ、[11\) のサイト/1](#)には、次のような記載があった。

「薪を背負って歩きながら本を読む」金次郎の姿が初めて登場したのは、1891年に出版された幸田露伴の「二宮尊徳翁」という本の挿絵でした。当神社にある少年像は1928年、昭和天皇即位御大礼記念として神戸の中村直吉氏より寄進されたブロンズ像。制作者は三代目慶寺丹長。これと同じ像は、全国の小学校に向けて約一千体制作されましたが、戦時中全て供出に遇い、現在残っているのは、この一体だけです。

上記の記事より、「三代目慶寺丹長は昭和初期には売れっ子の鋳造師であった」ことが分かる。現在は、「四代目慶寺丹長」が活躍しているので([12\) のサイト/1](#))、「慶寺丹長」は鋳造界では有名な家柄なのであろう。

[13\) のサイト/1](#)には、「和宮の生涯」が、次のように書かれていた。

和宮は、親子(ちかこ)内親王といい、仁孝(にんこう)天皇の第8皇女として、弘化3年に生まれました。母は議奏(ぎそう)の橋本実久(さねひさ)の娘経子(のちの観行院(かんぎょういん))で、誕生後、橋本邸で養育されました。嘉永4年(1851)6歳で、有栖川宮熾仁(ありすがわのみやたるひと)親王と婚約しました。しかし、大老井伊直弼らを中心に公武合体のため降嫁が計画され、老中安藤信正によって、降嫁が実現しました。文久2年(1862)2月11日には江戸で14代将軍家茂との婚儀が行われました。しかし、将軍家茂は、第二次長州攻撃のため三度目の上洛中の慶応2年(1866)7月20日、大坂城で病死しました。21歳の和宮は江戸城にとどまり、12月に薙髪(ちはつ)して静寛院宮(せいかんいんのみや)と名のりました。江戸城開城後、清水邸に移り、明治2年正月に京都に戻り明治7年6月まで滞在した後、ふたたび東京に帰りました。明治10年8月から、持病の脚気(かっけ)治療のため、箱根塔ノ沢温泉に滞在し、9月2日そこでなくなりました。亡骸は、家茂がねむる増上寺に葬られました。

和宮の生涯は、ウィキペディアなどに多くの記事がある。これらの資料などにより、増上寺の和宮像の概要は次の通りである。

和宮立像

設置場所：東京都港区芝公園 4-7-35 増上寺安国殿内

制作者：三代目慶寺丹長

制作時期：1933年

設置経緯：和宮(1846年7月3日-1877年9月2日)は、親子(ちかこ)内親王といい、仁孝天皇の第8皇女として、弘化3年に生まれました。1851年、6歳で有栖川宮熾仁(ありすがわのみやたるひと)親王と婚約しました。しかし、大老井伊直弼らを中心に公武合体のため降嫁が計画され、1862年2月11日には江戸で14代将軍家茂との婚儀が行われました。しかし、将軍家茂は、第二次長州攻撃のため三度目の上洛中の1866年7月20日、大坂城で病死しました。21歳の和宮は江戸城にとどまり、12月に薙髪して静寛院宮と名のりました。江戸城開城後は江戸に留まり、大政奉還、江戸城開城など新旧体制の円滑な移行や、その後の徳川将軍家の処遇、旧幕臣の救済に貢献されました。1877年8月から、持病の脚気治療のため、箱根塔ノ沢温泉に滞在し、9月2日そこでなくなりました。亡骸は、家茂がねむる増上寺に葬られました。等身大といわれるブロンズ製の御像が増上寺安国殿左脇壇に安置されております。本像は1926年に増上寺で修された静寛院宮50回忌法要のちに企画され、「和宮様の奉賛顕彰と日本女性の婦徳の涵養」を目的に、1933年正月、鋳造師・3代目慶寺丹長により制作されました。宮中の式日に参内する姿を表したとされています。

(4) 明照会館前の明照大師像

私は [14\) のサイト/](#)より、増上寺境内にある明照会館（図1上の③）にも銅像があることを見つけた。本像は境内でも見えにくい所にあるので、[1\) のサイト/](#)に収録されていない。図5に、本像の周辺写真を示す。



図5. 明照会館前の明照大師像

[14\) のサイト/](#)は、明照会館を次のように説明している。

浄土宗の事務所は宗務庁といい、京都市東山区と東京都港区の2ヶ所にあります。宗務庁（東京）は浄土宗大本山増上寺の山内、東京タワーが間近に見える場所にあります。この建物は「明照会館」といい、3階と4階が事務フロアです。同じ建物には、浄土宗総合研究所、浄土宗東京教区教務所、「公益財団法人浄土宗ともいき財団」や「公益財団法人全日本仏教会」等の事務所もあります。

次ページの図6には、本像台座背面の銘文を示す。それには、次のように書かれている。

明照大師尊像

この童形像は明治天皇より賜った大師号を記念する明照会館竣工にあたり宗祖法然上人幼年勢至丸さまのやがて浄土宗開祖ともなる旅立ちの第一歩のお姿である。原像は浄土宗保育協会が岡山県誕生寺に建立し作者山田良定がこれを復刻しこの地に寄贈した。

昭和五十四年一月二十五日

題字 浄土宗 宗務総長 稲岡覚順

撰文 浄土宗 教学局長 古谷道雄

鑄造 滋賀教区 専念寺住職檀徒一同

基壇 東京 浄土一洗会

なお、本像制作者の山田良定氏の略歴は、ウィキペディアに次のように書かれています。

山田良定（やまだ りょうじょう、1931年10月5日 - 2002年1月30日）は、日本の彫刻家。日展理事。浄土宗専念寺住職・滋賀大学名誉教授。滋賀県出身。

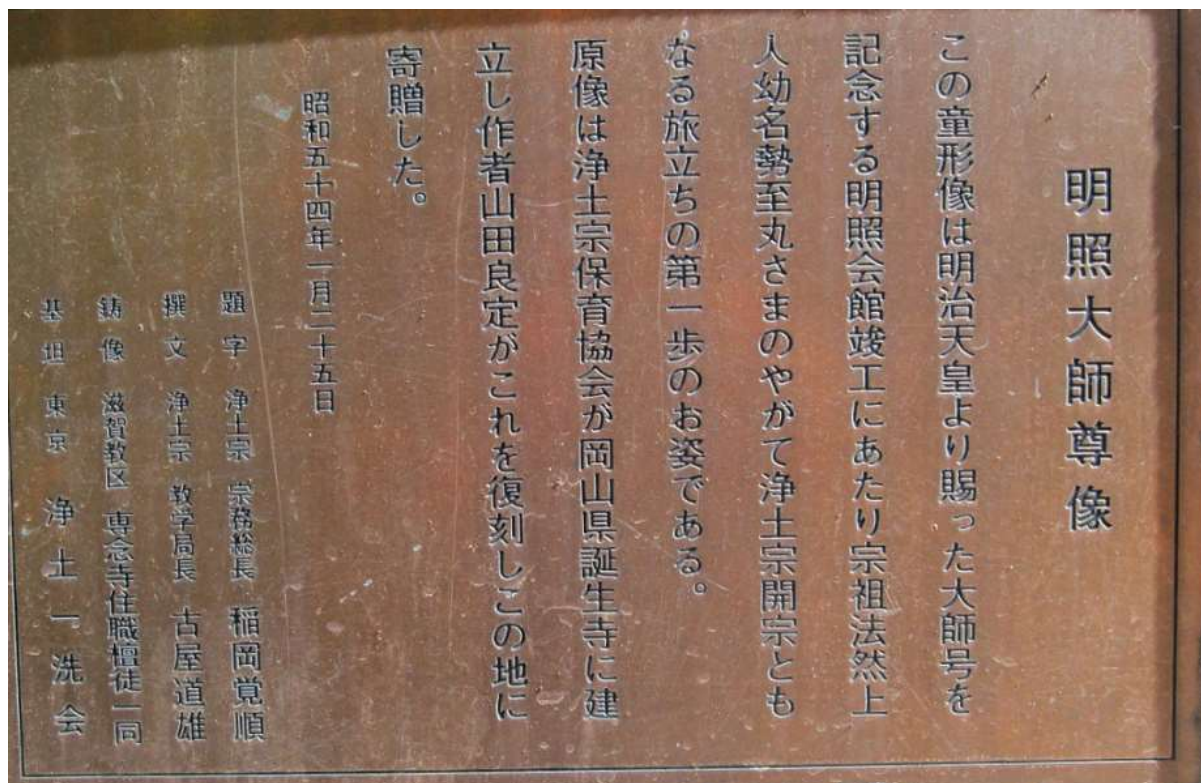


図6. 本像台座背面の銘文

次ページの図7左に、明照大師像を示す。図7右上に、本像の題字を示す。それには「明照大師」とあった。図7右下に、本像台に彫られた制作者サインを示す。それには「良定 謹作」とあった。

以上の資料などにより、明照大師像の概要は次の通りである。

明照大師立像

設置場所：東京都港区芝公園 4-7-35 増上寺明照会館前

制作者：山田良定（1931 - 2002）

制作時期：1979年1月25日 明照会館竣工記念

設置経緯：この童形像は明治天皇より賜った大師号を記念する明照会館竣工にあたり宗祖法然上人幼名勢至丸さまのやがて浄土宗開祖ともなる旅立ちの第一歩のお姿である。原像は浄土宗保育協会が岡山県誕生寺に建立し作者山田良定がこれを復刻しこの地に寄贈した。



図7. 左：明照大師立像、右上：本像台座正面の題字、右下：本像台の制作者サイン。

参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：<http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト：<https://yosyan.hatenablog.com/entry/20160523>
- 4) のサイト：<https://www.zojoji.or.jp/keidai/>
- 5) のサイト：<https://www.zojoji.or.jp/info/>
- 6) のサイト：[浄土宗総・大本山歴代住持 - 新纂浄土宗大辞典 \(jodoshuzensho.jp\)](http://jodoshuzensho.jp)
- 7) のサイト：<https://www.zojoji.or.jp/keidai/>
- 8) のサイト：<http://miburou.blog103.fc2.com/blog-entry-1071.html>
- 9) のサイト：<https://www.zojoji.or.jp/news/696.html>
- 10) のサイト：<https://www.asahi.com/articles/ASQ3T737NQ3SULOBOOP.html>
- 11) のサイト：<https://ameblo.jp/dorahappa9/entry-12476515783.html>
- 12) のサイト：<https://www.takenakadouki.com/area/saitama/>
- 13) のサイト：<https://wheatbaku.exblog.jp/15934570/>

14) のサイト : <https://jodoshu.net/shusei/staff/>